

平成 30 年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	36	学校名	静岡県立静岡東高等学校	校長名	勝山 博子
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ア	授業改善と学力向上	・教員の授業参観 年3回以上 100%	・全教員の平均で1学期には2.16回、2学期には1.21回の授業参観を行った。	A	・アクティブ・ラーニングを取り入れた公開授業の機会を設け、これからも授業参観を促していく。	研修
		・「授業を通して学力や技能の向上が実感できた」と答える生徒の割合 全科目で70%以上	・授業アンケートを実施した51科目中、47科目で70%以上を達成した。	B	・9割以上の科目で達成できている。全科目が到達できるよう、授業改善を進めていく。	
		・教員の教科指導セミナー参加者人数 5人以上	・駿台予備校等が主催するセミナーに、5人（英・国・数・理・地歴）が参加した。	A	・授業や受験指導の改善に役立つセミナー等に、今後も参加していく。	
		・1・2年家庭学習時間 平日1日平均2時間以上	・1年学習時間4,6,10月平均141.4分、2年学習時間4,6,10月平均135.4分であった。	A	・2学年とも10月に学習時間が減少が見られる。 特に、10月の調査時期は中間テストの翌週で体育大会と文化教室があった週で、学習に目が向いていなかった。	進路学年
		・1・2年11月進研模試偏差値平均 55以上	・1年11月国数英総合54.8（国54.5、数54.6、英53.3）、2年11月国数英総合56.8（国55.0、数58.1、英55.6）であった。	B	・1年の数値が例年よりも平均偏差値で2点近く低い。対策が必要。 ・2年は数学中心によくがんばっている。	
		・センター試験平均点 全国平均+5%以上	・数ⅡB(2%), 世史(1%), 日史(1%), 地理(-2%), 物理(0%), 化学(1%)が5%以上にならなかった。	B	・例年に比べて世界史、日本史が振るわなかった。教科、科目で分析を行い、対策をとりたい。	
		・3年予備校DVD講座参加者数 40人程度	・DVD講座参加27人 計画的に利用できた者は約50%。少数ながら、ほとんど利用できなかった生徒もある。	B	・2次対策として充実した教材であり、利用した生徒にとってメリットがあった。最後まで継続的に取り組んだ生徒は高く評価していた。自己管理ができず十分に活用できない生徒をどうするかが課題。	
		・56期生以降の進路指導計画の確立	・進路指導計画について作成中である。	B	・今後も継続して作成していく。	

様式第3号

	<ul style="list-style-type: none"> 東陵セミナーにおける探求的学習プログラムとパフォーマンス評価の開発 	<ul style="list-style-type: none"> 56期生1年時の探求学習プログラムの基本形は確立できた。学年進行で作成予定。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した学習プログラムは未完成であるため、今後継続する。
	<ul style="list-style-type: none"> eポートフォリオによる生徒の活動履歴の蓄積の推進 	<ul style="list-style-type: none"> Classiポートフォリオ機能に実績を蓄積させた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3学期に蓄積させた実績のまとめ直しを行い、調査書1年欄の元とする。
	<ul style="list-style-type: none"> 教員による先進校訪問 4人以上 	<ul style="list-style-type: none"> 県外の先進校に4人の教員が訪問した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 持ち帰った内容を全職員で共有した。本校の教育の推進に活用したい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
イ	志の育成と進路目標への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> キャリア講演会・キャリア講座・大学模擬授業 生徒満足度 各90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア講演会 満足度96% キャリア講座 満足度97% 大学模擬授業 満足度94%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いずれの企画も講師の力量にも恵まれ高い評価を受けた。特にキャリア講演会は講師によって満足度が大きく変わるため今後もその点には留意したい。キャリア講座は満足度が高かったので職業人インタビューにその成果をうまく継承したい。 	進路学年
		<ul style="list-style-type: none"> 大学訪問 生徒各自の目標達成率100% 	<ul style="list-style-type: none"> 大学訪問目標達成率97.8% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 大学訪問の成果をクラスで発表し、優秀作品を掲示した。意識の高まりを感じた。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 東大訪問参加者数40人程度 満足度90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 東大訪問29人。満足度90%以上であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 参加した生徒は良い刺激を受け、学業に励む気持ちを強くした。 	
		<ul style="list-style-type: none"> センター試験5教科受験率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> センター試験の900点満点の受験率は80.0%だった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 病気以外の理由による当日未受験者が複数人あった。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ハイレベル模試受験者数 学年各30人以上 	<ul style="list-style-type: none"> ハイレベル模試受験者1年30人、2年48人であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 志高く持つ生徒が多く受験した。この生徒たち中心に学年全体の意識がさらに高まることを期待している。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学現役合格者数180人以上 	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学合格者125名 	C	<ul style="list-style-type: none"> 静大の層が伸びなかった。センターテストがよかったことで、実力以上の大学に挑戦して不合格になった生徒が多い。2次力の強化が課題。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 難関国公立大学(※6)合格者数30人以上 	<ul style="list-style-type: none"> 大阪1、東北1、名古屋4、東京外語2をはじめ、計20名が合格した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 私大への傾向が強く、早稲田1、慶応1など、私立上位校にも合格した。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 専門教養講座の単位取得生徒数10人以上 	<ul style="list-style-type: none"> 述べ前期1人、後期15人の受講があり、全員が単位取得予定である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 皆、意欲的に取り組んでおり、いい機会となっている。2年生の参加者がもう少し前期で出るとよい。 	教務
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒個人面談回数5回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 予定どおり5回行う期間を設け実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各担任が面接シートを用い、生徒の理解を深めた。必要に応じて面談を行っているが、時間的に全員行うところまでは至っていない。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 静岡大学実験実習講座参加者数20人以上 満足度90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 静岡大学実験講座を8月に行った。5講座に合計43人の生徒が参加した。満足度は95.5%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な指導で、生徒の満足度が高い講座であり、引き続き実施したい。今年度は1年生の参加が多かった。 	

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ウ	能力や特性の育成	・遅刻生徒数 1日平均全校で5人以下	・1日の遅刻生徒数は平均5.9人であった。	B	・人数は増えているが、不注意の遅刻は少なく、体調不良だったり、不登校気味の生徒が、頑張っ て遅刻して登校している。むしろ欠席が減少していることは好ましい結果である。	教務
		・「自ら進んで挨拶をしている」と答える生徒 90%	・各学年複数以上のHRで調査した結果、90%以上の生徒が自ら進んで挨拶しようとしている。	B	・年間通して自ら進んで挨拶する状況をつくるための対策と指導を強化しなければならない。	生徒
		・各部活動の目標達成率 80%	・各部活動の目標達成率の平均は81.1%であった。	A	・目標を達成している部活動が多く、県大会以上での活躍が見られた。	
		・最終下校時間 19:30の遵守	・部活動顧問に調査した結果、すべての部で下校時刻がおおむね守られている。	A	・19:30の完全下校を目指して、各部での時間管理の意識を確実にしたい。	
		・東陵祭生徒満足度 80%	・生徒アンケートの結果67%が満足、普通が30%、悪いが3%であった。	B	・生徒の意見をできる範囲で反映させるとともに、文化祭の意義を意識した東陵祭を企画させようしたい。	
		・修学旅行生徒満足度 各コース90%以上	・台湾コース99.3%、九州コース100%の満足度であった。	A	・多少の体調不良者が出たが、生徒たちは旅行を満喫し、普段経験できないことから多くのことを学んだ。	2年
		・内湖高級中学との授業交流(4月)満足度 80%	アンケート調査では、91%の生徒が満足と答えた。	A	・台湾コース選択生徒全員が携わって内湖高級中学の生徒に積極的に日本文化を紹介できた。	交流委
		・英語研修の参加者数 30人以上 満足度90%以上	・ブリティッシュヒルズ英語研修参加者31人、満足度95%であった。	A	・英語学習や異文化理解に対する興味関心が深まった。	国際理解委
		・英語外部検定 CEFR B1レベル80人以上 A2レベル300人以上	センター試験、GTEC、英語検定の結果から、3年生は概ねすべての生徒がA2レベルをクリアできている。B1レベルに関しては目標の8割程度であった。	B	卒業時に全員がA2レベルの能力を身につけるようにするとともに、B1レベルの生徒が増えるよう、個別対応等で上位層の指導を行いたい。	英語
		・文化教室 生徒満足度 80%以上	・アンケートで「良い」と答えた生徒 92%	A	・鑑賞態度に問題を感じる場面もあったが、生徒は満足したようである。	図書
・図書館の貸出本冊数 3,000冊以上	・図書館の貸出冊数は、5,987冊であった。	A	・新しい企画が功を奏し、図書館の来館者数が増え、貸出数も増加した。			

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
エ	品性の育成と命を守る教育の推進	・「高校生活指導プログラム」による系統的な初期指導とクラス目標づくりの実施	・1年の4月に読み合わせを行い、実践を図った。	B	・1年担任の4月の多忙化を解消しつつ充実をしたい。	学年進路いじめ防委
		・情報モラル関連の生徒指導 0件	・情報モラル関連の生徒指導件数は0件だった。	B	・SNSの不適切な使用など情報モラルに関する生徒対象のセミナーを実施したい。	
		・重大な生徒交通事故件数 0件	・重大な生徒交通事故件数は0であった。	B	・自損も含めた交通事故件数は20件以上あった。更なる対策と指導が必要である。	生徒
		・保健便りによる健康指導回数 15回以上	・保健便りを年間18回発行した。	A	・ホームページ掲載および生徒保健委員会との連携を継続する。	保健
		・グループエンカウンター実施 各学級1回	・一部のクラスで実施されなかった。1,2年生では実施後、親和感が平均1.1ポイント上昇し、効果を確認できた。	B	・年度初めのクラスの間人間関係作りに関して一定の役割を果たすことができた。内容を再検討し、すでに出来上がっているクラスの間人間関係にも一石を投じるようなエクササイズを提供したい。	相談
		・Q-Uテストの実施と活用 全学年	・各学年で実施した。	A	・結果を相談室連絡会議で共有し、指導に反映させた。	
		・教育相談だより発行回数 8回以上	・生徒向け、教員向けの教育相談だよりを目標回数発行した。	A	・教育相談だよりを職員研修に活用し、効果を上げた。	
		・地域防災訓練への生徒参加率 80%以上	・地域防災訓練への参加率84.7%であった。	A	・1年生のみ参加。(2年生は修学旅行のため不参加) ・今後も参加率80%以上を目指したい。	総務
・一斉メール配信を活用した安否確認訓練の実施	・メール登録した生徒に安否確認のテストメールを送ったところ754件の返信が得られた。	B	・来年度は自動で安全確認メールが配信できるようにしたい。			

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
オ 広報活動の充実と教育環境の整備	・土曜公開授業の参加者数 計 1,600人以上	・参加者数は1,482人であった。	B	・7月7日の台風による中止があったが、ほぼ昨年並みの参加者数であった。	教務
	・土曜公開授業外部評価 満足度 90%以上	・88.5%が満足している。(大変満足が48.5%)	B	・満足度は昨年より2%程低下した。	
	・土曜公開での校内美化への外部意見批判 0件	・美化委員会および部活動の協力を得て、批判的な意見はなかった。	A	・来年度以降も継続して校内美化を行いたい。	保健
	・HP更新頻度 週5回以上	・HPの記事を毎日更新することができた。	A	・授業の様子や行事など学校の情報を多く発信することができた。	情報
	・HPにおける各部活動の活動報告 学期1回以上	・3ヶ月に1回(年間4回)HPに各部活動活動報告を掲載した。	A	・各部活動の大会結果だけでなく普段の活動内容を報告することができた。	
	・事務室窓口へのクレーム件数 0件	・事務室窓口へのクレームはなかった。	A	・事務室内及び教職員と情報共有を図り、円滑で丁寧な窓口・電話対応に努めることができた。	事務
	・月1回の安全点検の実施	・月1回の事務担当の目視による点検と、毎日の技能員による見回りに加え、教職員による安全点検を実施した。	A	・日頃から教職員と連携して情報共有を図り、安全で安心な施設設備の維持に努めることができた。	
	・「信頼できる先生がいる」と答える生徒 80%以上	・「信頼できる先生がいる」と答える生徒は全体で81.5%であった。	B	・「信頼できる先生」の割合は学年が上がるが高率になる。1年生は80%を下回った。	学年
	・学年主任連絡会の実施 8回以上	・3回しか実施できなかった。	C	・学年主任の懸案事項が、いずれも、学校行事や進路指導など学校全体にかかわる内容で、結論がでなかった。各学年主任が多忙で、実施が難しかった。	
	・教職員の時間外勤務の正確な把握	・勤務実績簿を用い、毎月の時間外勤務の実態を把握できた。	A	・年間を通した時間外勤務の削減を図りたい。	管理職
・定時退庁日の周知徹底	・毎週月曜日を中心に、平日部活動休養日を設けている。	C	・教職員個々の実態に即した形の定時退庁日を設けるようにしたい。		